

Q 農大跡地活用に続く 市の重点的な取組

うちの
内野 嘉広 議員



A 各拠点の機能充実を図り、 ネットワークを強化していく

問 埼玉県による先端産業実証
フィールドの進捗について。

答 農業大学校跡地周辺地域整備
備有識者会議における意見など
を踏まえ、ロボット開発支援フ
ィールド（仮称）などの基本構
想と基本計画を今年度中に策定
する予定と、県から聞いている。
問 鶴ヶ島駅周辺地区拠点整備
構想策定事業の今後について。

の影響から、予算事業としては
休止しているが、早期の事業再
開を目指し、検討を進めている。
また、株式会社関水金属の新工
場建設の状況などに合わせ、必
要な箇所から先行して実施して
いくことも考えている。
問 藤金土地地区画整理事業の現
状と今後について。

答 関連する都市計画の変更を
行い、施行区域を約4・8畝に



鶴ヶ島南通り線及び川越鶴ヶ島線

Q 地域公共交通の抜本的 見直しについて

たかはし けんじ
高橋 剣二 議員



A 現状では見直しの必要性は 低いが、適宜検討していく

縮小しており、民間活力などを
活用して事業化を目指していく。
施行区域から除外された区域
は、用途地域を変更するととも
に、必要な道路及び広場を地区
計画に定めており、地区内の住
環境の充実を図っていく。
◎その他の質問
一 道路整備に伴う交通安全対
策について
二 大谷川雨水第一幹線の整備
に向けた方針について



つるバス

問 鶴ヶ島市の公共交通の現状
と課題について。

答 公共交通ネットワークはほ
ぼ市内全体に行きわたっており、
交通不便地域はおおむね解消し
ている。令和2年度はコロナ禍
により利用者が減少した。混
雑便の解消やルートの見直し、
新設や増便を求める声にどのよ
うに対応していくかが課題であ
る。このほか、運賃収入の減少
による損失補償額の増加なども
留意すべき事項である。
問 公共交通の抜本の見直しと
今後の方向性について。

答 現状では、交通体系を抜本
的に見直す必要性は低い。今後
は、立地適正化計画で設定され

ている公共交通軸を基本とし、
道路環境の変化や市民の要望等
に応じて適宜検討していく。

問 交通インフラの技術革新に
ついての見解は。

答 技術開発・技術革新が進ん
でおり、特に情報通信技術や人
工知能を活用した研究や実証実
験が行われ、具体的には、自動
運転バスの実証実験やAIによ
るオンデマンド交通の実用化が
進められている。利便性や快適
性の更なる向上が期待されるた
め、その動向に注視していく。
◎その他の質問 介護保険の現
状と課題、適正化について